フィジー通信

No.7
2019年６月

青年海外協力隊2017年度１次隊　栄養士　佐藤綾己（あやみ）

Bula！私は遂に今月、青年海外協力隊の任期を終えて帰国します。
任期の2年間は栄養士として活動する他にも、現地の人と共に過ごす中で様々な経験ができました。今回はフィジーのお祭りやお祝い事を通して、この国に住む人々が国、文化や家族を大切にしている様子をお伝えします。

フィジーデイ｜独立記念日（10月10日）

毎年10月10日はフィジーの独立記念日で祝日です。
地区ごとに広場でイベントが開催され、フィジーの国旗の色と同じ青い服を着た人々が集まってお祝いします。フィジーの人は愛国心がとても強く、フィジーが大好きです。当日の1か月前くらいから服屋さんには青いＴシャツが大量に並べられ、街には国旗が飾られます。当日は会場で会った何人かの見知らぬ人から、「一緒にお祝いしてくれてありがとう」と言われました。フィジーの人々からはこのような場面で、人を受け入れてみることで、お互いにあたたい気持ちになるのだと教わったりするのです。

▲青い服を着た人がたくさん

▲歌、ダンス、クイズのステージ

▲熱狂する人々

▲フェイスペイントが人気

▲家族でお揃い

▲旗は無料配布されます

▲アイスも青

▲服屋さん

▲民族衣装も国旗柄

▲同じ服の少年を発見

ディワリ

「光の祭典」とも呼ばれる、ヒンドゥー教のお祭りです。お祭りは5日間続きますが、一番豪華なのは最終日です。家を開放してお菓子とご馳走でお客さんをもてなし、夜には大人も子どもも花火を楽しみます。

▲インドスイーツ

▲まぶしい家の飾り

▲花火でお祝い

結婚式｜フィジー系

同じ村の幼なじみ同士が結婚した、古き良きフィジーがギュッと詰まった結婚式に参列することができました。一番驚いたのは、豚まるまる2匹が贈り物になっていたことです。しかし、周りの人々は驚いた私を見て笑っていました。それぞれの「当たり前」が別の場所ではそうではない。当たり前の違いには戸惑うことも多かったですが、いつの間にかマイノリティな環境に慣れて、それを楽しんでいる自分に気が付きました。

▲新郎新婦と

▲お祝いのマットと枕

▲新郎家から新婦家への贈り物

▲村の中心に作られた結婚式場

▲ダロ芋、キャッサバ、魚、鶏、豚、牛肉が入った最高に豪華なご飯

▲男性はカバで大忙し
（カバについては通信第２号参照）

結婚式｜インド系

インド系の結婚式はとにかく煌びやか！夜に開催して盛大な飾りつけとライトアップが特徴です。新婦の家族は親も兄弟も親戚も全員が号泣していたのが印象的でした。

▲キラキラな新郎新婦

▲女性はサリーを着てオシャレ

▲私のは簡易なカミース

誕生日

家族を大切にしたり仲間意識の強いフィジーでは、誕生日は家族・職場・友人からと何回もお祝いしてもらうことが多く、当日だけではなくしばらく幸せが続きます。ケーキはすごく甘くて油っぽいため、私は３口ほどで満足します。宗教の関係からベジタリアン向けのものも一般的で、様々な色と形のケーキが並んでいる中から主役が喜んでくれそうな一つを選ぶのはとても楽しいです。

▲派手な中身のケーキも人気

▲フィジー色

バースデーソングは3番まで

Happy birthday to you～と歌う定番のバースデーソング。フィジーでは３番まであって、ろうそくを消すまでが長いです。

1　Happy birthday to you
2　Happy long life to you
3　May god bless you

～ケーキを食べるまでのお約束～

ケーキを受け取ったら ▶ ナイフを入れて決めポーズ ▶ 仲良しの人が主役に食べさせます

大学卒業

同僚が、妹が大学を卒業したお祝いをするからおいでよと誘ってくれました。
想像以上にたくさんの身内やご近所さんが集まっており、盛大にお祝いが開かれていました。私と友人のトンガ人は、外国人ということで特別ゲストとして扱っていただき、サルサルと呼ばれる首飾りをもらいました。同僚の妹は、主役としてスピーチをする際に、家族、友人と恩師への感謝の言葉を述べながら、感極まって涙を流していました。彼女は今後、家庭科の先生になるとのこと。きっと素敵な先生になるでしょう。

▲カバの準備もバッチリ

▲やはりナイフを入れてポーズ

▲家族のみなさんと

教会での行事

キリスト教のフィジー人は毎週日曜日の午前中に教会へ出かけ、昼食は近所の人が持ち寄って普段よりも少し豪華なご馳走を食べます。この日は、教会の建て替え工事を行うためのセレモニーにお邪魔してきました。普段教会へ行く時はカラフルな民族衣装ですが、この日だけは白いドレスを着ており神聖な雰囲気が増していました。私を誘ってくれた友人はお寿司が大好きなので、差し入れにつくったら喜んでもらえました。

▲素晴らしい歌声

▲地面にはお守りを埋めました

▲お寿司とフィジー料理の共演

友人のフィジー訪問｜初海外×誕生日

先月にあった日本のゴールデンウイーク10連休。その連休を利用して、友人が日本から遊びに来てくれました。彼女にとっては初海外で、ちょうどフィジーに到着する日に誕生日を迎える、記念だらけの旅行でした。5日間の短い滞在をたくさん笑って楽しく過ごし、そんな旅の珍道中をお伝えするにはフィジー通信が10ページは必要なので割愛します。

もし私が他の国の赴任であれば、彼女はフィジーではなく他の国が初海外の地になっていたはずです。もし私が青年海外協力隊になりたいと思うきっかけになった本や、応募する背中を押してくれた人に出会っていなければ、彼女は海外に出ることはなかったかもしれません。目に入るもの、聞こえてくる声、出会う人、様々なことが交わって折り重なって、一人一人の人生が動いているのだと考えずにはいられませんでした。同様に私もまた、たくさんの人に導かれて今この場所に元気に立っているのだと思うと、全てのことに感謝の気持ちでいっぱいです。

▲同僚ともおしゃべりしました

▲誕生日をお祝い

▲エコバッグ購入

今回紹介した様々なイベントに参加できるのは誘ってくれるフィジーの友人がいてこそです。私も日本で外国人に会ったら、日本を楽しんでもらえるように手を差し伸べたいと思います。私がフィジーで何度もそうしてもらったように。

この通信を書いている今、帰国まで1週間を切りました。フィジーの地を去る時、日本に戻った時、そして日本社会で新しい生活を始めた時に、自分がどんな気持ちで何を考えるのか分かりません。どのくらい寂しくなるのかも今は想像できません。

次号では2年間の振り返りを綴ります。もう1号お付き合いください。

それではまた次号でお会いしましょう。Moce. Sota tale.（モゼ ソタ タレ/またね）